

2013 年度（平成 25 年度）第 1 回、第 2 回河川 A P 論点整理  
（継続事案のみ抜粋）

1. 今後のダム改良について

※次年度よりレビューを開始し改良するダムを選定する。同時に、先行して改良の検討をするダムとして森林管理局はオッカバケ川 2 基、北海道はモセカルベツ川 1 基を選定する。

※対象魚種は、サケ科魚類とする。

（課題）

- ダム改良して何処まで遡上させるのが妥当か検討するため、改良を行う前調査としてオショロコマの分布を調査することが望ましい。
- H24 年度の改良ダム 13 基の評価結果を踏まえて、今後はダム区間における産卵環境へ配慮した工法を検討する。
- クマと人との接触機会を減らすためにも、人家や道道近くでサケ類が滞留しているダムを優先的に改良した方が良い。

2. 長期モニタリングについて「H25 年度（2013 年度）実施分」

（1）サケ類遡上等に関する長期モニタリングについて

※ルシャ川の第 1 ダム下流の河床は低下してきている。

（2）オショロコマ等の生息状況及び水温変化モニタリング

※水温の変動が大きい河川と小さい河川があり、変動が小さい河川は湧水の影響を受けている可能性がある。その分析で湧水の影響を評価できる可能性がある。

※オショロコマ密度はシマフクロウの生息域と関係するが、その関係性を押さえておくことも必要である。このため、今後、シマフクロウ生息数を調査する別の長期モニタリング項目に本データを提供し、活用していくこととする。

（課題）

- オショロコマの減少はニジマスとの種間競争のみならず、釣獲圧や土砂流入の現象も無視できない。今後、現在ニジマスがいない河川へ釣り人等が放流しないよう注視していく必要がある。

3. その他

※遡上等モニタリングにおいては、日の出から日の入りを「昼」とする。

※シロザケ、カラフトマス、サクラマスは「サケ類」と表記する。

オショロコマやアメマス（イワナ属）を加えた場合は「サケ科魚類」と表記する。

※モセカルベツ川、ケンネベツ川では、藻類、水生昆虫、魚類の調査データを取っている（河口オブザーバー）ので、評価に活用が可能。

※将来的な課題として、サケ科魚類の生息状況や産卵環境の問題点を一度整理して、遺産地域内の河川のゾーニング実施が望ましい。